

# すぐそこにある 風景と歴史

番外編 ③

## 御田神社の石灯籠

向日市内の古くからの町内では、愛宕講と呼ばれる集まりを組んで、火難除けの神である愛宕神社(京都市右京区)の御札を受け、防火を祈る愛宕信仰が盛んです。市内には、江戸時代の正徳3(1713)年を最古として、講ごとに建立した24基の石灯籠があり、今も家々で順番を回して灯籠に火をともし、愛宕神社への献灯を続けている講もあります。愛宕講の石灯籠は愛宕灯籠と呼ばれ、そのほとんどに「愛宕山御神前」や「愛宕山常夜灯」の文字が刻まれています。

そのなかで、上植野町西小路にある愛宕灯籠は少し変わっていて、正面に「御田(おだ・おんた)神社」と刻まれています。この灯籠が立つ場所は、江戸時代には上植野が一村で祀る「御田神社」があり、境内には小さな祠もありました。「牛神様」とも呼ばれて豊作を祈る鎮守でしたが、明治11(1878)年に新政府の社寺統廃合政策によって廃社となりました。

同じ石灯籠がもう1基、近くの上植野公民館・町事務所の前にあります。もとは御田神社の入口両脇にあった灯籠が、廃社によって1基は元の場所で地元町内の愛宕灯籠に、もう1基は村の事務所の庭に用いられた、とみられていました。

しかし、実際は別の経緯があったことがわかりました。きっかけは、乙訓随一の質・量を誇る上植野区有文書を研究するグループが、明治24

# 今なおあついで愛宕信仰 姿変えながらよみがえる

(1891)年の区長日誌のなかに、「ろ組(西小路や野上山の町内のこと)から事務所へ石灯籠をほしいとってきたので、相談して一本だけやることにした」という記録を見つけたことでした。廃社の際、2基ともいったん事務所へ引き取られ、それを御田神社があった地元の町内が申し受け、愛宕灯籠の代わりにしたのです。

他に、江戸末期の弘化3(1848)年2月付けの古文書に、「牛神様(御田神社のこと)」の木枝を誤って切り払ってしまった村人が、おわびに石灯籠一対を寄進することを約束するものがありました。灯籠に刻まれている「弘化三丙午二月吉日」の年号とも一致します。

今は少し離れた場所に立つ2基の石灯籠は、もとは村人が鎮守境内の木枝を切ったおわびに寄進した一対のもので、明治に入って廃社となった時に村の事務所に引き取られ、さらに地元の要望で1基は愛宕灯籠代わりに元の位置に戻り、もう1基は公民館新築時に建物前の植え込みに設置されて、現在の姿になったのです。

地元ではもう知る人もない風景の歴史が、古文書や記録によってよみがえることがあります。そして、人々の営みによって形づくられた風景は、時の流れとともにその姿を変えながら、今日に続いていることを教えてくれます。(終わり)



▲上植野町西小路の愛宕灯籠



▲上植野公民館前の石灯籠

☎文化資料館 ☎931 - 1182

## 環境 ともに考えよう



私たちが暮らす地球は、現在さまざまな環境問題を抱えています。中でも重要な問題のひとつが、地球温暖化。二酸化炭素などの温室効果ガスが地球から大気圏外への放熱を妨げるため、温室効果が進み、地球が温暖化しています。

省エネやリサイクルは、エネルギー消費を抑え、二酸化炭素の排出を減らすための大切な取り組みです。衣・食・住の観点からライフスタイルを見直し、環境に優しい生活を送りましょう。

**衣** 温度調節がしやすいよう服装を工夫し、エアコンを節電して、不要な衣服は捨てずにリサイクルしましょう。

**食** 買い物や調理方法の工夫が省エネにつながります。食材は食べる分だけ買い、産地の近い旬のものを選びましょう。

**住** 家電製品は効率的に使い、車の運転は急な加減速を減らすなどエコドライブを心がけましょう。

☎環境政策課(内線234)

### ネットワーク会議登録団体からのお知らせ 「はり湖周辺の自然を守る会」

はり湖池周辺の清掃活動に、ぜひご参加ください。緑地、自然、景観、古墳や良好な住宅環境を守るため、活動を続けています。入会歓迎。申込み不要。



- 日時・集合場所／6月12日(日)午前10時～、五塚原古墳頂上。小雨決行
- 持ち物／軍手、ゴミ袋、ゴミ拾い用火ばさみ
- ※ボランティア保険に加入しています。

☎はり湖周辺の自然を守る会事務局の森安さん ☎931 - 0785

## 新着図書



今月の一冊

ぞうきんレスラー

ナカオマサトシ 作  
イヌイマサノリ 絵  
そうえん社

カラフルタオルのカラーはタオル界のアイドル。ステージでほこりたちによごされたカラーは、おとうさんと同じ「ぞうきん」になり、「ぞうきんレスラー」としてデビューすることに。カラーはレスラーとして、リングに立つことができるのでしょうか。

### ■一般図書

- 新聞の正しい読み方 情報のプロはこう読んでいます！ 松林薫 著 NTT出版
- 真田幸村と十勇士 山村竜也 著 幻冬舎
- ビジュアル資料作成ハンドブック 清水久三子 著 日本経済新聞出版社
- 通貨の未来 円・ドル・元 英『エコノミスト』編集部 編 文藝春秋
- 1歩前からはじめる「統計」の読み方・考え方 神林博史 著 ミネルヴァ書房
- 家族病 夫の問題 妻の問題 子の問題 金盛浦子 著 さくら舎
- 元素ビジュアル図鑑 三井和博 監修 洋泉社
- ジャムの本 田中博子 著 東京書籍
- ぬか漬の基本 はじめる、続ける。 山田奈美 著 グラフィック社
- ブームをつくる 人がみずから動く仕組み 殿村美樹 著 集英社
- 名作うしろ読みプレミアム 斎藤美奈子 編 中央公論新社
- 恭一郎と七人の叔母 小路幸也 著 徳間書店
- レプリカたちの夜 一條次郎 著 新潮社
- 花が咲くとき 乾ルカ 著 祥伝社
- 僕の違和感 上・下 オルハン・パムク 著 早川書房
- ラガ 見えない大陸への接近 ル・クレジオ 著 岩波書店

### ■児童図書

- 楽しく作ろう！手作り万華鏡 豊田芳弘 監修 ブティック社
- だまし絵・錯視大事典 椎名健 監修 あかね書房
- 遊園地の妖怪一家 富安陽子 作 理論社
- 弓を引く少年 大塚菜生 著 国土社
- こぶたものがたり チェルノブイリから福島へ 中澤晶子 作 岩崎書店
- エベレスト・ファイル シェルバたちの山 マット・ディキンソン 作 小学館
- お静かに、父が昼寝をしております ユダヤの民話 母袋夏生 編訳 岩波書店
- きょうはかぜでおやすみ パトリシア・マクラクラン 文 大日本図書
- からかさにごえもん 最上一平 文 国松エリカ 絵 文研出版
- ざしきわらしのおとちゃん 飯野和好 作・絵 小学館
- いってらっしゃいんちくん ナカオマサトシ 作 イヌイマサノリ 絵 ひさかたチャイルド
- しおちゃんとこしょうちゃん ルース・エインズワース 作 こうもとさちこ 訳・絵 福音館書店
- おにきちおにぎり 林彩子 作 せべまさゆき 絵 学研教育みらい
- なかないでなかないで あまんきみこ 作 黒井健 絵 ひさかたチャイルド
- とんでもない 鈴木のりたけ 作・絵 アリス館
- ダンゴムシのコロリンコくん カズコ・G・ストーン 文・絵 岩波書店

### おはなしひろば

絵本によるおはなし、紙しばい、手遊びなどを、親子、お友だちと一緒に楽しみください。

●日時・場所／6月18日(土)午前11時～(約45分)、図書館

※当日自由に参加していただけます。

☎図書館 ☎931 - 1181